

特集 久留米 女性週間記念事業 くるめ 9月28日▶10月7日 フォーラム2024

9月28日、地域会場の市民企画を皮切りに、久留米女性週間記念事業「くるめフォーラム2024」が始まりました。記念講演、上映会、市民企画、展示・バザーなどが開催され、今年も4800人を超える多くの方が来場されました。その様子を紙面でお届けします。

記念講演

10月6日 視聴覚ホール
210・211研修室
301・302学習室
※モニター視聴

講師

伊藤 詩織 さん
映像ジャーナリスト

演題

誰かの人生を「情報」として消費しないために
—ジェンダー平等を考える—

「遠い国の話を聞くと、それがすごく遠い世界の話だと感じるかもしれない。だけどこの女だから男だからこうあるべきってのは日本でもたくさんある。」

今年度の記念講演は映像ジャーナリストである伊藤詩織さんにご登壇いただき、「誰かの人生を「情報」として消費しないために —ジェンダー平等を考える—」として、自身が取材されてきた海外での女性器切除（FGM）の慣習を通してジェンダー平等についてお話いただきました。講演の中では自身の経験と重ね合わせ様々な女性のストーリーを語っていただき、またそれを経て自分たちがどうすべきなのか、どう発信していくべきなのか、どう捉えていくべきなのかを示していただきました。講演の中の次の言葉が特に印象的です。



「メディアの中で発信しているものをただの情報として消費するのではなく、その人の人生を通して考えていく、もう少し血の通った情報として捉えていく必要があります。それはもちろん届けていくほうもそうだけど、受け取る側もいろいろな想像力を働かせていく必要があるのだと、私は思っています。」

参加者の声

知らないことをまず知ること、そこから自分で考え感じること、自分ができることを実行していく、広めていく、とても大切だと実感しました。(40代)

映画上映

10月5-6日 視聴覚ホール
(計5回上映)

約束の宇宙 (そら)

2019年 制作国：フランス



シングルマザーの宇宙飛行士と幼い娘の愛と絆を描く「約束の宇宙(そら)」を上映しました。幼い子を育てながら、自分の子どものころからの夢を実現していく姿に多くの方が感動していました。

参加者の声

難しく、複雑な状況で、何かをやりとげる事は大変だと思う。周囲の人の協力、気持ちも重要だなとあらためて感じました(50代)

子育て中の女性が自分の夢実現のため全身全霊で力をふり絞って戦っている姿に感動!(70代)

展示・バザー

10月1-7日 (展示) 10月5-6日 (バザー)

展示コーナーでは9団体と久留米市が男女平等についての展示を行いました。どの団体も色彩や展示方法に工夫を凝らし、それぞれの思いや日々の活動を発信しました。多くの方にメッセージをお届けできました。



バザーには16団体が参加しました。手づくりの小物、農産物、パンや飲み物について、販売する団体の方とお客様が談笑する姿が印象的でした。調理実習室では、赤飯と豚汁、カレーライスが販売され、こちらも多くの方が賑わいました。



実行委員会挨拶

実行委員会や市民団体には若い世代の参加があり、世代を超えた女性週間にふさわしいジェンダー平等を考える内容でした。情報が錯綜しているこの時代に、確かな男女平等の視点はとても重要だということ学びました。フォーラムで得た学びが「住みやすいまち久留米」を考えるきっかけになることを期待します。

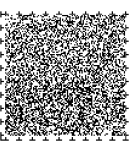
久留米女性週間記念事業実行委員会

実行委員長 今村 美恵子



— 久留米女性週間記念事業実行委員会とは —

男女共同参画社会を目指す個人、各市民団体から選出された委員で形成される委員会であり、自ら各事業を企画・運営し、くるめフォーラムを実施します。くるめフォーラムは啓発事業であるとともに、男女共同参画を目指す団体と参加者の交流の場でもあります。



男女が共に
のびやかに豊かに生きる

新しいまちづくりを進めるために

